

米国NASA研修で感じたこと

岡山県立倉敷天城高等学校 1年R組 2番 荒田 陽秀

私はまたアメリカに行きたい。そしていつかはアメリカに住んでみたい。私は10月29日から11月3日に行われた米国NASA研修から帰ってきてすぐにこのように感じた。

今回の研修は私にとって初めての海外体験であった。初めての国際線、初めての入国審査、初めてのサマータイムなど、自分にとってこの研修が初の経験の多さに緊張もし、不安でもあった。岡山大学での事前研修で、日本に研修のために来られていた海外の学校の先生方を前にして英語で研究発表の練習を行った時も、当たり前のように英語でかえてきた質問やアドバイスには科学の専門的な英単語も多々あり、何を言われているのかわからない、どう答えればよいのかわからない、と頭が真っ白になることもあった。そのたびに、自分はアメリカで研究発表ができるだろうか、一人だけ足を引っ張らないだろうか、と不安になることもあった。

5月初旬に選考の作文と面接があり、中旬に選考結果が知らされ、いざアメリカに旅立つまでの6月から10月の下旬にかけて、基本的には放課後に学校で、また何度かは岡山大学に出向いて事前研修があった。ワクワクと待ち遠しいという気持ちと、緊張して不安な気持ちの板挟みになっている間に、岡山大学であった3回の手前研修も放課後の事前研修も、気が付けばあっという間に終わってしまった。いよいよ渡米だ。

飛行機に10時間ほど乗りロサンゼルス国際空港に着いた。緊張しながら受けた初めての入国審査も無事に通過し、アメリカ、ロサンゼルスに降り立った。アメリカに初めてわたって感じたことは、何もかもが広くて、大きい、広大だということだった。辺りを見回してみると日本のように迫りくる山がなく、見渡す限り平地がどこまでも続いているように思えた。道も広く、片側が7車線あるようなところもあった。そんな道路が通勤や帰宅時には大渋滞してしまうというから、おそるべし。さらに、乾燥していると感じた。雨もとても少なく、1年に10日ほどしか降らないらしい。

まず研修1日目は、Aquarium of the Pacific での Behind the Scenes Tour に参加した。館内に入った途端、いきなり目の前に大きなクジラのオブジェがあり圧倒された。普段私たちは水族館では展示されている生き物や、実際に研究している様子を水槽や部屋のガラス越しからでしか見ることができない。しかしここでは Behind the Scenes Tour に参加することによって、実際にスタッフの方が働いている場所に立ち入り、上から大きな水槽を見学したり、研究している水槽や内容について説明を受けたり、飼育中の見たこともないような生き物を間近で見たりすることができた。なんと、大水槽の上から餌として海苔をあげることもできた、が手渡されたのは日本でよく見る乾燥させた四角い海苔だった。それを小さくちぎってあげると、そこそこ大きな魚たちがいっせいに集まってきた。私は魚が乾燥させた海苔を食べることに驚いた。さらにサメの卵やとげが鋭いカニの脱皮した皮を触ることができた。カニの脱皮した後の皮は柔らかくて、もろそうだと思っていたけれど、触ってみると意外と硬かった。こんな風に研修1日目は終了した。



研修2日目は、まず LOS ANGELES COUNTY MUSEUM OF NATURAL HISTORY へ行った。外観はいかにも博物館といった感じだった。この博物館の前にはロサンゼルスオリンピックのコロシアムがあり、隣にはスターウォーズのルーカス博物館ができる予定だ。中に入るとまず、手にテントウムシのスタンプを押してもらった。このスタンプは入館した印で、テントウムシはこの博物館のキャラクターみたいなものらしい。面白いなと思った。そして、トリケラトプスとティラノサウルスの化石が迎えてくれた。組み立てて展示されている化石を実際に見たのは初めてだ

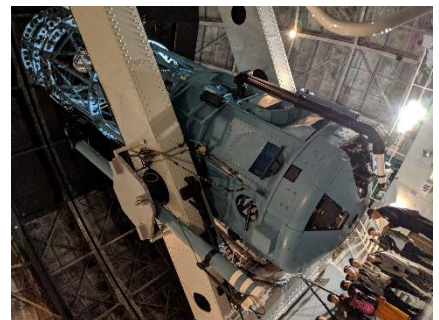


ったのでものすごい迫力だった。この博物館にはたくさんの鉱石や動物のはく製、化石など自分をワクワクさせるものがたくさんあった。宝石は世界最大級のものばかりだし、たくさんある化石の中には触ることのできるものもある、そして自分たちの祖先の原人の化石なども展示されていた。狐の毛皮を持って歩いている人がいて、触らせてもらえた。絵本で書かれている通り、狐のしっぽは太くてふわふわしているということを実感できた。アメリカの歴史上でかなり重要な金も、数えきれないほど展示してあった。この博物館にいと宝石や金も含めて、なんだか物の価値がわからなくなってしまいそうになる。どれも初めて見るものばかりで、すべて見ようと頑張ったが、十分に満足できるだけ見ることができなかった。写真に収めても、やはり自分の見るものとカメラに映るものは少し違うように思えた。ここには必ずもう1度訪れたい。そして満足のいくまでじっくりと見学したい。

次にお隣の California Science Center へ行った。ここではスペースシャトル・エンデバー号が展示されている。真上に展示されているため気になるところを隅々までじっくりと見ることができた。気になるところがあってボランティアのスタッフの方に声をかけるとわかりやすく丁寧に教えてくださるので、今まで本を読んででもよくわからなかったことがよく分かった。下から見上げるようにしてみるエンデバー号は物凄く迫力があった。スタッフの方に声をかけていただいてエンデバー号の着陸の操縦体験にも挑戦した。これがものすごく難しく墜落してしまった。結果2回もチャレンジさせてもらった。2回目は「さっきより良かったよ。」と言ってもらうことができた。とてもフレンドリーな方だった。さらにここ California Science Center には、ハリケーン体験装置というものがあった。3ドル払うと使えるプリクラのような機械の中に入ると上から風が出てきて、最高で風速80メートルになった。こんな風に楽しんでいるとあっという間に時間が過ぎて2日目が終わった。

3日目はロサンゼルスを離れてパサデナへ行った。まず、California Institute of Technology の地震研究所へ行った。エントランスには地震計がおいてあり、それが感じた揺れが隣のモニターの画面に現れるようになっていた。人が感じることのできない人が歩いたり、跳ねたりしたときの揺れも地震計は感じていたので、見ていてとてもおもしろかった。その後、地震や津波についても講義があった。日本の地震の映像が例として頻繁に出てきて、日本は世界的にも地震が多いということを改めて感じた。

午後からはウィルソン山天文台へ行った。この日は空に雲一つなくて、天文台の白いドーム、塔がとてもきれいだった。この天文台は100年近く前に建てられた歴史的な天文台で、アインシュタインやホーキング博士も訪れたそうだ。実際に写真やホーキング博士の指紋があった。ここでは太陽からの光を分光して、波長について教えてもらった。その後2つの望遠鏡のドームの中に入り、見学した。ドーム内は望遠鏡を熱からまもるために涼しくしてあった。華氏40か50度くらいで涼しいというかとても寒く感じられた。外から見ると真っ白で小さく見えるドームの中には、100インチのとても大きな望遠鏡がある。実際に使われるレンズをのぞかせてもらうと拡大されすぎていて、真っ暗で何も見えなかった。残すは研修ラスト1日となった。



研修の最後は Jet Propulsion Laboratory へ行った。入り口には銃を持った警備員が立っていて、とんでもないところへ来てしまったと思った。早速見学をしていくと、まずコンクリートの地面にチョークで書かれた、たくさんのきれいな衛星のイラストがあった。その近くには衛星や天体の現在地を示すオブジェがあり、どれも惹かれるものばかりだった。中でも1番だと感じたのは、MARS 2020 を組み立てている部屋だった。中は真っ白で温度や湿度を示すモニターなどがある厳重な環境の中の組み立て途中のMARS 2020 を見



ると、これが来年打ち上げられるのかと何とも言えない、少しわくわくした気持ちになった。また、オペレーションセンターもわくわくした。暗くてたくさんのモニターがあり、特に正面の大きなモニターには世界中のアンテナとそれが受けている電波があらわされておりかこよかった。この日がハロウィーンの次の日ということもあり、仮装踊っている人や“Give me some cookies”と書いたホワイトボードを持っている研究者の方もいた。案内をしてくださった方もみんなとてもフレンドリーな人たちばかりだった。そして、今回の研修の最大の課題であった英語での課題研究の発表も何とか終わることができた。発表後の質疑応答で、どんなことを聞かれているか理解できたがなかなか答えることができなかった。単語がわからない、とか、これで伝わるのかな、という不安で。一緒に行った他のメンバーはすらすらと答えられているのを見て、もっと自分の分野に対する英単語を知っておけばよかった、と思った。あと、もっと度胸があればなと思った。今回の発表での反省点を次は繰り返さないように生かしていきたい。そして、またいつかこのような場があれば、絶対に成功させたいと思った。

こうして今回の研修は終わった。

私にとって初海外、アメリカはみんなフレンドリーな人ばかりだった。今回お世話になった方々も、お店のレジの店員さんも。けれど、私自身に変なことを言うのを恐れて、課題研究もだが、あまり返答ができないという場面が多くあった。だからもっと英語を勉強して話せるようになって、またアメリカに来たいと思った。今回の研修ではまだまだ満足できなかったところなど、必ずまた訪れてみたい。そのために日々の勉強を怠らないよう頑張っていきたい。私の未来が一気に広がった気がする。

この研修は私にたくさんの知識や経験などを積ませてくれた。こういう形で終わることができたのは、仲達先生や白神先生、そして一緒に行ったメンバーの人たちに支えられたからだと思う。良い機会に私はこの研修に参加することができた。

できればまた来年も参加したい。そして、もっともっと多くの知識や経験を積みたい。